

顕現後第4主日 ルカ4章21―32節

〔直訳〕

21 だが彼は始めた 言うことを 彼らに向けて 次のことを

「今日 **満たされている** この聖句は あなたがたの耳の中で。」

22 そして 皆が ほめていた 彼を

そして 彼らは驚いていた 上に 恵みの言葉の 彼の口から出て来るものの。

そして 彼らは言っていた、

「ヨセフの子ではないのか この人は」。

23 そして 彼は言った 彼らに向けて、

「必ず あなたがたは言うであろう 私に このたとえを。

『医者よ、 あなたは癒しなさい あなた自身を。』

ところのことを 私たちが聞いた 起こったと カファルナウムで

あなたは行いなさい **ここでもまた** あなたの故郷の中で」。

24 だが彼は言った、

「まことに 私は言う あなたがたに 次のことを

誰も預言者は 受け入れられない 彼の故郷の中で。

25 だが真理の上に 私は言う あなたがたに、

**多くの やもめが** いた

エリヤの日々に **イスラエルの中に**、

ときに 閉じられた 天が 三年と六か月の間、

とき 起こった 大きな飢饉が **すべての地の上に**、

26 そして 彼らの誰に向けても **遣わされなかった** エリヤは

シドンのサレプタの中に **やもめの女性に向けてのほかは**。

27 そして **多くの 重い皮膚病の人たちが** いた

**イスラエルの中に** 預言者エリシャの上に、

そして 彼らの誰も **清くされなかった**。

シリア人のナアマンの**ほかは**。

28 そして **満たされた** 皆が 怒りで 会堂の中で 聞きながら これらのことを

29 そして 立ち上がって

彼らは追い出した 彼を 町の外に

そして 彼らは連れて行った 彼を 山の端にまで

その上に 彼らの町が建てられていた

彼を崖から突き落とすために。

30 だが彼は 通りすぎて 彼らの真ん中を抜けて 行った。

- 31 そして 下って行った 中へ カファルナウムの ガリラヤの町の。  
そして 彼はいた 教えながら 彼らを 安息日の中で。  
32 そして 彼らは驚きによって 圧倒された 彼の教えの上に、  
というのは 権威の中に あった 彼の言葉は。

〔新共同訳〕

21 そこでイエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められた。22 皆はイエスをほめ、その口から出る恵み深い言葉に驚いて言った。「この人はヨセフの子ではないか。」23 イエスは言われた。「きつと、あなたがたは、『医者よ、自分自身を治せ』ということわざを引いて、『カファルナウムでいろいろなことをしたと聞いたが、郷里のここでもしてくれ』と言うにちがいない。」24 そして、言われた。「はっきり言うておく。預言者は、自分の故郷では歓迎されないものだ。25 確かに言うておく。エリヤの時代に三年六か月の間、雨が降らず、その地方一帯に大飢饉が起こったとき、イスラエルには多くのやもめがいたが、26 エリヤはその中のだれのものにも遣わされないで、シドン地方のサレプタのやもめのもとにだけ遣わされた。27 また、預言者エリシャの時代に、イスラエルにはらい病を患っている人が多くいたが、シリア人ナアマンのほかはだれも清くされなかった。」28 これを聞いた会堂内の人々は皆憤慨し、29 総立ちになって、イエスを町の外へ追い出し、町が建っている山の崖まで連れて行き、突き落とそうとした。30 しかし、イエスは人々の間を通り抜けて立ち去られた。31 イエスはガリラヤの町カファルナウムに下って、安息日には人々を教えておられた。32 人々はその教えに非常に驚いた。その言葉には権威があったからである。

①構成

Ⓐ 21―22節

21節の「満たされている」は28節にも繰り返されている。イザヤの預言の言葉はイエスによって「満たされている」が、しかし、故郷の人々は、結局は怒りに「満たされた」ということに終わる。イエスの恵みの言葉に「驚いた」者が、イエスを崖から突き落とそうと考える者に変わる理由がテーマである。

Ⓑ 23―24節

この小段落では二重線で示したように「故郷の中で」が繰り返されている。特に23節では、「ここで」と述べた後に、それを説明して「あなたの故郷の中で」を加えている。故郷の人々はイエスに身内意識を持っており、同郷人としての特権を無意識に主張している。このような意識は排他的な、内向きの意識である。

Ⓒ 25―27節

この小段落では二つの事例が述べられるが、それぞれは同じ構成の文章になっている。

多くのやもめが  
イスラエルの中にいた

重い皮膚病の人たちが  
イスラエルの中にいた

遣わされなかった  
やもめの女性に向けてのほかは

清くされなかった  
シリア人のナアマンのほかは

同じ構文による繰り返しによって、異邦人をも視野に入れた神の救いの業が強調される。

① 28―30節

ルカにとって、イエスを排斥する故郷の人は、キリスト教の宣教を受け入れないユダヤの人々を  
予示する人たちとなっている。

② 31―32節

故郷から立ち去り、ガリラヤの町、カファルナウムにイエスは向かう。イエスが安息日に教える  
と、人々はイエスの教えに「驚きによって圧倒された」。故郷ナザレの人々の驚きを表す言葉と  
は別の言葉が用いられている。

② 故郷の人々の驚き (21―22節)

① イエスは故郷ナザレの会堂に入り、貧しい者の解放を告げるイザヤ書を朗読したあと、この預言  
は「今日、あなたがたの耳の中で満たされている」と宣言する。この解放は「耳の中で」満たさ  
れる解放である。だから、開かれた「耳」を欠くなら、その成就に気づくこともない。イエスの  
この宣言は「耳」を開くようにという呼びかけであり、この呼びかけは応答を求めている。

② イエスは自分で勝手にこの言葉を語るのではない。神がイエスを遣わし、福音を告げさせてい  
るのであるから、神と共に語りかけている。人々は力強い恵みの言葉を語るイエスをほめ、「彼は  
ヨセフの息子ではないか」と驚く。だがこの賞賛には、イエスを故郷の英雄として誇る人間的な  
興味が色濃く含まれている。自分たちの間から誕生したイエスを他郷の人に誇ることは、自分た  
ちを不必要に高めることであり、同時にまた、人間的な関わりの中でのみイエスを見ることであ  
る。彼らはイエスを利用して高くなり、自分たちを特権集団だと思いつむ。

③ 預言者を拒絶する故郷 (23―24節)

① イエスは「必ずあなたがたは言うであろう」と述べて、人々の不純な思いを暴き出す。彼らは他  
郷人にはない特権を享受できると思い込み、医者がまず自分を癒すべきであるのと同様に、イエ  
スは身内である自分たちに特別な恵みを与えるはずだと期待している。彼らの思いは自分たちの  
利益を求めて、内へ内へと向かう。しかし預言者は神に身を開く。だから彼らが神の言葉を受け  
入れないなら、彼らが預言者を受け入れることもない。

④ 外へと働きかける神 (25―27節)

① 預言者が働くのは、身内の利益のためではなく、すべての人の救いを望む神のためである。この  
ことを力説するために、「真理の上に私は言う」と語り出し、旧約の時代の二つの事例を説明す  
る。

② エリヤの時代に大飢饉が起こったとき、エリヤはイスラエルではなく、北方の異邦の地サレプタ  
のやもめの所に遣わされた(王上一七9)。エリヤは「遣わされた」のであって、自分の意志で  
出かけたのではなく、神によって派遣されたのである。

⑦ エリヤの弟子エリシャも異邦人の重い皮膚病の人を癒している（王下五1―14）。27節の受動態「清くされなかった」も、神の行為を遠回しに表現する神的受動態だろう。預言者を外へと遣わすのは神であり、外へと出てゆくことが預言者の使命でもある。身内意識に陥りがちな人間は、預言者を自分たちのために利用し、手もとに留めておこうと考えるが、神はすべての人の救いを心に留めている。

⑤ 神の言葉は異邦人へ（28―30節）

① 身内意識から離れられない同郷人は、イエスの言葉で満たされずに、怒りで「満たされた」。故郷との関わりよりも神との関わりを大事にしているイエスは、彼らの共同体とは異質な者と判断され、排除される。

② 怒りに満たされた彼らはイエスを崖から突き落とそうとするが、イエスは「彼らの真ん中を抜けて」立ち去って行く。イエスのこの姿は神の言葉を現している。人々が受け入れを拒否した神の言葉は、彼らの真ん中を素通りして、異邦人に向かって出てゆくことになる。

⑥ 驚きによって打たれる（31―32節）

① 22節の「驚く」はサウマゾー。「不思議に思う・驚き怪しむ・びっくりする」を意味する。32節の「驚きによって圧倒される」は、エクプレッソの受動態。接頭辞エクと動詞プレッソの合成動詞であり、プレッソは「打つ」を意味する。「驚愕・驚嘆によって」茫然自失とさせる、受動態は「驚きによって」一撃をくらわされる・圧倒される」を意味する。故郷の人々は、イエスの言葉を聞いて驚くが、その驚きはイエスが同郷であるという考えに向かい、イエスが自分たちの利益のために働くはずだと思ひ込む。

② カファルナウムの人々はイエスの教えに「驚きによって圧倒される」。「イエスの言葉は権威の中にあつたから」とあるように、彼らはイエスの言葉にある権威に驚愕している。33節以下で、イエスは汚れた悪霊を「黙れ、この人から出て行け」という言葉によって、追い出す。それを見た「人々は皆驚く」が、この部分の直訳は「驚きがすべての人の上に起こった」となる。ここにはいられている名詞サムボスは、「驚き・仰天・驚愕」を意味する。22節と32節の動詞の違いは、内向きになる故郷の人々と外へと打ち出されるカファルナウムの人々を対比させている。

⑦ 神の言葉は外へと働きかける

① イエスは「預言者は、自分の故郷では歓迎されない」と会衆に語る。エリヤもエリシャもイスラエルの外に遣わされたというイエスの言葉に憤慨した人々は、イエスを崖から突き落とそうとするが、イエスは人々の間を通り抜けて行く。この出来事を通して、神の言葉にいかに応答すべきかが示される。

② イエスの故郷の人々は、福音にふさわしくない応答の代表者である。神の言葉を前にしながら自分たちのこれまでのあり方に固執するなら、神の言葉は彼らを素通りして去ってゆく。なぜなら、神の言葉は外へ外へと働きかける動的な力に満ちているからである。しかし、神の言葉を受けとめ、それに自らを合わせてゆく者は、古いあり方から抜け出て、神の言葉と共に新しい世界へと出てゆく。